

### 第33期第3回常任理事会議事録

日時：2004年10月6日（水）17時00分～18時05分

会場：アクロス福岡606会議室（福岡県福岡市）

出席者：廣田，古川，岩崎，木田，住，多田，田中，  
坪田，新野，藤部，板東，以上11名。

その他の出席者：島村（事務局）

#### 議事

1. 第33期第2回常任理事会議事録の確認
2. 各委員会からの報告

庶務…転載許可

- 1) つくだ企画より，天気第44巻 p. 59の第2  
図他（岸本賢司，1997）の「気象予報士  
実技試験徹底攻略問題集」長谷川隆司他  
編著（ナツメ社）への転載。
- 2) 上越市長より，気象研究ノート第191巻  
p. 80の第5.10図（三上岳彦・石黒直子，  
1998）の「上越市誌」（上越市発行）への  
転載。

- 東北支部のホームページが開設された。
- 平成17年度の科学研究費補助金（文部科学省）  
公募案内を各支部に送付した。
- 島津賞，東レ科学技術賞および日産科学賞の  
候補者推薦書を発送した。
- 10月末からの天気や気象集誌の発送を大量冊  
子小包便に変更する。これにより年間配送料  
が150万円程度減額できる見込み。
- 本年度奨励賞を受賞した箕輪敏行氏から，授  
賞式の祝賀会にとのご寄付があった。
- 新会員制への登録について，10月5日現在の  
通常会員の登録数が500名を超えた。特別会員  
への登録希望は200名程度。

会計…2004年8～9月分の収支報告

- 公益会計で賛助会員の会費収入が200万円余  
あった。
- 公益会計で流動資産の公社債信託（860万余）  
を解約して運用資金とした（第33期第1回常  
任理事会議事録参照）。

天気…Vol. 51 No. 9（2004年9月号）の掲載記事と，  
Vol. 51 No. 10（2004年10月号）掲載予定記事  
の報告。

- 最近，記事の量が減っているので，解説など  
積極的に投稿して頂きたい。

気象集誌…Vol. 82 No. 6（2004年12月号）の掲載記  
事の報告。

- 12月の特集号（Regional Climate Modeling  
for Monsoon System）に掲載する論文11編  
が報告された。

気象研究ノート…207号からの販売は取り継ぎを通  
さず学会が直接行う。印刷と流通の業者選定  
を行っている。

- 「天気」に掲載予定の2004年度春季大会シン  
ポジウム（2003年の冷夏）の報告を特集号と  
して再掲する。掲載にあたっては天気から転  
載した旨を明記する。

SOLA 編集…10月から投稿の受付が始まり，幾つか  
査読に入っている。

- 英文校正とデータベース登載について業者選  
定を進め，掲載開始予定の来年1月には順調  
に掲載されるようにしたい。
- 広報をもっと活発に行う必要がある。

国際学術交流…7月にシンガポールで開催された  
AOGS（アジア大洋州地球物理学会）第1回  
会合の内容や気象学会の関与について「天気」  
に報告する。

- 10月の中国気象学会80周年記念大会（北京）  
に住理事が学会代表として出席する。2005年  
度春季大会の前に行う国際シンポジウムにつ  
いて確認する予定。

電子情報…2004年8月1日～31日の気象学会ホーム  
ページのアクセス状況（103,665件）。

- アクセス数は前月よりも若干増加した。昨年  
同月に比べても大幅に多い。
- 秋季大会告示ページへのアクセスが多い。7  
月に多かった過去の大会プログラムへのアク  
セスは大幅に減少した。
- 第7回「守田科学研究奨励賞」の候補者募集  
記事を掲載した。
- 電子ジャーナルアーカイブに関するアンケー  
トへの協力をお願いを掲載した。

3. 会員の加入・退会

新入会員22，退会8を承認。10月4日現在，会員  
数4,248名（内，通常会員3,800名）。

4. 第33期第2回理事会の議題について

各担当理事から寄せられた資料を確認した。

5. 10月7日の各賞贈呈式の段取りについて  
次第を確認した。なお、奨励賞を受賞した箕輪敏行氏が欠席のため代理で坪田理事が受け取る。
6. その他
  - (1) 気象学会が共催する「理工学における同位元素・放射線研究発表会」の次年度の運営委員選出に関する依頼が11月中旬に届く見込み。
  - (2) 気象学会が共催する「風工学シンポジウム」の過

去の論文集のCD-ROM化に当たり、著作権委譲への協力依頼があった。「天気」の「学会だより」に掲載して周知する。

- (3) 日本学術会議の改組に対応して、科学研究補助金(基盤研究等)の審査委員選考方法の変更に関する周知文書が届いた。これまでは関連学会からの推薦で委員を選んでいたが、今後は日本学術振興会自らが研究者のデータベースを充実させ候補者を選ぶ方法に変更する。

## 第33期第2回理事会議事録

日 時：2004年10月6日(水) 18時10分～20時05分

会 場：アクロス福岡606会議室(福岡県福岡市)

出席者：廣田、古川、磯部、伊藤、岩崎、木田、里村、住、多田、田中、津田、坪田、中村(和)、中村(健)、新野、板東、藤部、宮原、山崎、以上19名。

その他の出席者：小宮(福岡管区気象台長(大会委員長)), 相澤(福岡管区気象台(大会実行委員)), 島村(事務局)

議事に先立って、廣田理事長から、秋季大会を担当した九州支部に対して感謝の意が表明された。

### 議 事

1. 2006年度秋季大会の担当機関について  
中部支部が担当することが了承された。
2. 細則の一部改訂について  
出版物の各編集委員会の委員長について、理事に限らず適任の人が参加できる仕組みを作り自在に活動できる場とすること、また、この考え方を庶務と会計を除く全ての委員会に適用することが提案された。2005年度の春季大会の総会議題として提出すべく検討を進めることが了承された。
3. 地球惑星科学関連学会の連携について  
これまでのワーキンググループ会合や常任理事会における議論の経緯が説明された。また、連携組織を2005年5月の地球惑星科学合同大会の期間中に設立する提案が出ていることが紹介された。  
質問として、AGU(American Geophysical Union)のような組織への発展を想定したものか、また、会費は日本気象学会と連携組織の両方に必要か、

更に、個別の学会の開催はどこが調整するのか、などがあった。これらについて、体制の発足が急務であり細かな内容は順次決めること、また、会費についての議論が煮詰まっていないことや、学会の開催についての議論がまだ中途であり、当初は共催と単独開催が混合するであろうことなどが説明された。

新組織への加盟を総会で議決すべきかとの質問があり、議決を必要としない活動報告の形で良いかどうか常任理事会で検討することとした。

4. 気象学会125周年記念行事の準備開始について  
第2回常任理事会で確認した方針と行事案が示された。各支部からも積極的にアイデアを出していただきたい。
5. 大会予稿集のページチャージについて  
予稿に投稿料を課すこと及び免除規定の案が示された。請求の事務処理を軽減させるため、投稿料は事前納入とする考えも説明された。  
大学の法人化により施設利用費が増加し、学会開催費を圧迫していること、また、他学会では投稿料が珍しくないこと、加えて、大会参加費の値上げは好ましくないなどの意見により、投稿料を課すこと自体には基本的に賛同が得られた。  
金額については要検討として常任理事会で更に議論を深め、来年3月の理事会での決定を経て、同春季大会で提案することとした。
6. 第1会東アジア気象学会共催国際シンポジウムの開催について  
2005年度春季大会前に東大キャンパスで行われる国際シンポジウムの内容案が説明された。